

5) 矢印が集中している刺激語は、「酒」・「お金」・「鯛」である。

6) 他の刺激語と関係を持たない孤立した存在となる刺激語は、読書前の「縄」である。

イメージウエイトが平均が5であることから5以上の値を持つ刺激語と、読書後に大幅にイメージウエイトが増加した刺激語を、この民話のイメージを導く重要な刺激語として判断する。よって向島の民話「孝子と浮鯛」でイメージを導いている刺激語は、「酒」・「鯛」・「お金」・「名産」・「貧乏」・「瓶」・「村」・「田んぼ」・「母」となる。特に「酒」は連想される回数が増加しただけではなく、読書前では連想されなかった刺激語からも連想されていることが分かる。よって、これらの刺激語が向島の民話「孝子と浮鯛」のイメージを決定づける刺激語であると考えられる。

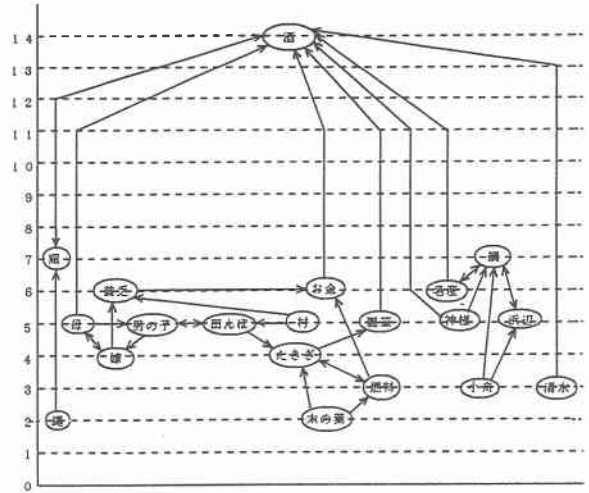


図-2 連想階層図（読書後）

3. 整備課題の抽出

以下のように考えてみた。

1) 各島の心性

向島 : 向島の民話「孝子と浮鯛」では「酒」がイメージを導く最も重要な刺激語であると考えられる。酒は独りで飲むというよりも、祭りや年中行事の際に共に飲むものであり、一つの瓶の酒を分かち合うことによって、集団での一体感を確認出来るものである。よって「酒」という刺激語には協調といった意味が含まれると考え、「酒」・「母」・「嫁」・「男の子」といった刺激語から、向島ではより家族の絆が望まれているのではないかと推測出来る。

因島 : 因島の民話「栗切火」では「父親」が最も重要な刺激語であると考えられる。父親は支配の象徴であることから、昔の因島の住民は抑圧されていたのではないかと推測される。

生口島 : 生口島の民話「亀の首」では「亀」が最も重要な刺激語であると考えられる。亀は長寿の象徴であると共に海の神として崇められていることから、暴れ者の亀が登場するこの民話から生口島では海難事故が多かったのではないかと推測される。

大島 : 大島の民話「呼子の奇談」では「死霊」が最も重要な刺激語であると考えられる。死霊・悪霊は奴隷状態を表す事から女性の死霊が登場するこの民話から大島では女性の地位が低かったのではないかと推測される。

大崎上島 : 大崎上島の民話「蛇婿」では「蛇」が最も重要な刺激語であると考えられる。蛇は古来水の神として神聖視されてきたことから「蛇」・「田」・「米」・「雨」といった刺激語から大崎上島では水不足による干ばつがあったと推測される。

2) 対象各島の比較

各島の心性から因島と大島には「父親」・「死霊」という支配・奴隷状態を表す刺激語から、抑圧から逃れたいという共通点があるのではないかと推測される。また生口島と大崎上島には「亀」・「蛇」という水の神として考えられる刺激語から、この2島には水に関する災害があったのではないかと推測される。

4. 結び

言語連想実験は一応結果が出せるが、それから地域整備課題を見つけるのが難しいところがある。データの収集や整理で助力いただいた本学学生であった牛島誠二、川下聖之、大橋剛、藤原政富、高木学氏に感謝する。

参考文献

1) 佐々木綱・竹林幹雄：1994風土分析国際ワークショップ・論文集「単純マルコフ性を考慮した言語連想アンケートの分析手法について」、pp17～pp25、1994年7月